

# 公益社団法人 宇佐高田青年会議所 2024 年度 理事長所信

第 51 代理事長予定者 榎本善仁

## 【はじめに】

宇佐高田青年会議所は昨年創立 50 周年を迎えました。

51 年目として、2024 年度が新たにスタート出来ますことは、ひとえに宇佐高田青年会議所 OB・OG の諸先輩方と地域の皆様方の深いご理解とご協力の賜物であると心より感謝申し上げます。

いつの時代も私たちは、ふるさとを愛し、「明るい豊かな社会」の実現のために、様々な運動・活動に取り組み、歴史を刻んできました。私たちの所属する青年会議所の活動の原点はどこにあるでしょうか。

それは活動をさせてもらう事の出来る地域がある。と言う事が大前提にあると私は考えます。

これまで私たちは、常に社会情勢に目を向け、まちの活性化、青少年の健全育成などの事業展開し、まちに無くてはならない団体になれるよう務めて参りました。

しかし、2020 年から流行した新型コロナウイルスの影響により、当たり前前に開催していたお祭りやイベント等が無くなり、このまちから笑顔や 活気が無くなりつつありました。「楽しかった」「次はいつあるの?」「また参加したい」そんな子どもたちからの一言が私たちの活動の励みになっていたのを忘れてはなりません。私たちは、地域の宝である子どもたちのために行動し続ける必要があります。それぞれの地域で奮闘する人たちにスポットを当てて、活動の場 を作るべきです。そのためにも、会員の拡大は 2024 年度最重要課題です。一人でも多くの志を同じうする仲間を迎え、宇佐高田青年会議所メンバー 一人ひとりが地域にアンテナを張り巡らし、いかに困難な時代でも柔軟な 発想力と行動力で「ゼロからイチ」を作りだしていくのが私たちの使命で はないでしょうか。 そのためには私たちが活動できることに感謝し、地域の皆様から求められる事業展開をすることが「明るい豊かな社会」の実現に近づけると考えます。

【人づくりグループ】 未来を担う子どもは地域の宝。子どもたちの成長なくして地域の発展はないと考えております。 どのように子どもたちがたくましく、しっかりとした教養を持ち、他人 を思いやれる子どもに成長させるか、いつの時代においても最も困難ですが、最もやりがいのある課題であると思います。子どもの頃から、多くの 体験・経験を積み、成功や失敗を重ねながら自分の成長や将来に繋がる何 かに気づく機会が必要と考えます。また、私たちはまさに子育て世代の中心です。私たち自身も、親として、人として現代の青少年の諸問題・課題 に関心を持ち、青少年健全育成を目指さなければいけません。 そこで、人づくりグループではわんぱく相撲担当委員会、青少年育成委 員会を設置し、心身ともに健全でたくましい次世代のリーダーとなる青少 年健全育成を目標として活動をし

てまいります。子どもたちが自主性を 持って取り組み、集団において適切な協調性を持ち決めた目的に向かって 挑戦して自己実現できる、そんなきっかけを提供できる事業を行います。そして、子どもたちが相撲の経験を通じて体感したことを、これから先 の様々な壁や困難が目の前に立ちはだかっても決して逃げることなく、自分自身の強い決意を胸に、その壁や困難を打破する力へと変えてほしいと 考え、本年度も第 37 回わんぱく相撲双葉山杯を開催します。 私たちが地域の先人方から頂いた恩恵を、今こそ次世代を担う子どもたちにしっかり継承していくことが地域の未来を担う子どもたちの成長に寄与すると確信しております。

【 地域貢献・拡大推進グループ 】 持続可能な組織であり続けるには、会員拡大は必要不可欠です。しかし、 近年では全国的に会員減少が大きな問題となっています。 より良い宇佐高田青年会議所に発展していくためには会員数を増やしていかなければなりません。まずはメンバー全員の会員拡大に対する意識を向上させることが大切だと考えます。 会員拡大は誰かに任せるのではなく自分自身の課題とも捉え、組織が一丸となって行っていく必要があります。 また、会員拡大は入会していただくことだけでなく、同じ志をもって、地域のために運動を展開できるリーダーになっていくことが必要であり、 より強固な組織であり続けるために会員の定着に向けた取り組みも必要となります。

7

そして入会したメンバーと共に地域のために、JC 運動を展開し続ける事で、地域を牽引するリーダーとして地域から愛され、必ず持続可能な組織になっていくと確信しております。また、地域貢献委員会では宇佐神宮マラソン実行委員会と共に、行政や各種団体と連携を図り、青年会議所としての地域貢献に向けた運動・活動を展開します。

#### 【 運営グループ 】

私たちが JC 運動・活動を展開していくためには組織運営は非常に重要な役割を担っています。 業種や考え方の異なる多様なメンバーの集合体である組織をまとめるためには、メンバーとのコミュニケーションが重要となります。総会、例会、三役会、理事会など各種会議のスムーズな運営を行い、メンバーの参加しやすい環境を作っていくことで積極的な参加へとつなげます。 また、様々な情報を確実かつ迅速に共有し、LOM が一体となり運動・活動できるよう宇佐高田青年会議所の基礎として支えます。さらに、メンバーが意見を活発に交える環境をつくるために、委員会の開催を推進し、常に新しいアイデアの絶えない組織づくりを行います。

#### 【 結びに 】

私は、2018 年に青年会議所に入会しましたが、青年会議所との出会いは 2013 年に遡ります。オブザーブという形で業界である教習所部会の例会に呼ばれ参加したことがきっかけです。 それまではサラリーマンとして業界に携わってはいましたが、経営者としては業界に知り合いは誰もいませんでした。しかしこの教習所部会の例会に参加したことで全国に

知り合いが一気にできたという印象が強くあります。この例会に参加していなかったら青年会議所のことも知らなかったと思いますし、入会も考えなかったと思います。 教習所部会に入会するには地元の青年会議所に入会しなくてはいけないことを知りましたが、当時の私は豊後高田には青年会議所はない。と思いこみ数年、オブザーブで教習所部会に参加していました。 しかし、当時の宇佐青年会議所の活動エリアが宇佐市、豊後高田市と知り、当時のメンバーの方からの誘いもあって入会という形になりました。 最初の入会へのきっかけは教習所部会に入会するためでしたが、様々な事業に携わっていくうちに青年会議所に入会して良かったと思えるようになってきました。そして、2022年12月17日に公益社団法人日本青年会議所の理事会で LOM 名称変更の承認を頂き、2023年1月1日より宇佐高田青年会議所として新たにスタートしました。

私は歴代4人目の豊後高田出身の理事長として宇佐高田青年会議所の存在意義を宇佐市、豊後高田市全域の方々との相互理解のもと一層の発展をしていかなければいけないという責任があると感じています。そのためにも、まずは地域のために素晴らしい事を行っていることにメンバー自らが実感し、楽しむことが重要だと考えます。

最後に、青年会議所は40歳までと限られた時間の中で、様々な運動・活動を通して挑戦、成長する場が提供されます。在籍年数や役職に関係なくどのような姿勢で活動に取り組むか、どこに目的意識をもってどのように活動していくのかによって、自己成長の差が変わります。中には自ら限界値を決め成長することを止めてしまう人、失敗を恐れて行動を起こさない人もいます。しかし、私たちは誰だって完璧ではありません。だからこそ多様性を求め、時には補い合い、価値観の交流から自己の成長を促すことが大切です。 突出した一人の100歩に頼るより、多種多様な100人の一歩がはるかに組織を強くし、地域に対する運動力を発揮すると考えます。 なぜ宇佐高田青年会議所に入会したのか。もう一度自分自身の未来を描き創造してください。失敗は失敗ではありません。どんな失敗でも新たな一歩となります。共に歩み続け、共に成長していき、先輩諸氏から受け継いだ50年の歴史ある宇佐高田青年会議所を更に発展させるために、未来へつながる一歩を共に踏み出しましょう。